

教育ボランティアだより

No.27

～子どもたちとのかかわりを求めて～

2019年7月23日

教職支援室

甲府市立善誘館小学校・・・7月4日（木）

今回訪問させていただいたのは、甲府市立善誘館小学校（6学級，児童数138人）です。甲府市立善誘館小学校では、主に算数の授業補助として、3年生の学生さん2人が、それぞれ週に1～2回ずつ活動しています。当日は、お忙しい中にもかかわらず、柏木精一校長先生、小林和仁教頭先生が対応してくださいました。

4校時に、3年1組の算数の授業を参観しました。ここでは合田樺恋さん（障害児教育コース3年）が教育ボランティアとして活動していました。児童が筆算の練習問題に集中して取り組む中で、一人一人の児童の様子を見て回り、個別にことばをかけたリ援助をしていました。



◇合田さんに聞いてみました

教育ボランティア活動をしようと思ったきっかけは何ですか。

- 教育実習の前に子どもたちと関われる時間が欲しかったからです。

教育ボランティアをやってみてよかったと思うことを聞かせてください。

- 善誘館小学校では、いろいろな学年を担当させていただけるので、子どもたちの行動や考え方がそれぞれ違うことを実際に見ることができました。
- 教育実習に向けて、先生としての立場に慣れることができました。また、実習後は、実習で身につけたことを発揮することができています。

これから活動を始めようと考えている学生へのアドバイスをお願いします。

- 自分の経験や想像だけではわからない現場を見ることができるので、ぜひ参加するといと思います。何より、子どもたちが可愛いです。

柏木精一校長先生のお話

学校では、言語表現や言語活動とともに、どの子どもも考えられる、どの子どもも活躍できる、学びのユニバーサルデザインに特に力を入れています。その中で、学生さんが算数の授業の補助をしてくださっているのはとても助かっています。また、学校の教師よりも子どもと歳が近い大学生の皆さんには、子どもたちの良い相談相手、気軽に話せる相手になってほしいと思っています。

来てくださっている学生さんは、とても意欲的に動いてくれているので、とても助かっています。やはり、将来の意識によって、ボランティアの学生さんの取り組み方にも違いがあるように感じます大学生の皆さんには、ぜひ学校の「生の雰囲気」を感じ取ってもらい、将来に役立てていただけるとありがたいです。

◇訪問を終えて・・・合田さんは、昨年度から同じ学校でボランティアに参加しており、今回の学級は久しぶりだったそうですが、児童たちから歓迎されている様子がうかがえました。これもひとえに、真摯な態度で意欲的にボランティア活動に取り組んできた成果だと考えられます。また、算数の授業では、問題が解けない児童に対して、同じ目線になってゆっくりと向き合って指導していました。このような体験は、将来教壇に立ったときに大きな財産となることと思います。多くの学生の皆さんが教育ボランティア活動に参加し、教師としての実践力を高めることができるといいと思っています。日頃より、教育ボランティア活動を受け入れ、様々なご配慮をいただいている善誘館小学校の先生方に、心から感謝致します。